

水稲の生育状況（8月4日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2023年8月7日

1 生育状況

8月4日現在の水稲の生育状況は、平年値（2013～2022年までの過去10年平均）と比べて、表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(8月4日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬*	同等	同等	やや薄い
	6月中旬**	やや短い	少ない	薄い
キヌヒカリ	6月上旬	同等	同等	同等
	6月中旬	同等	やや少ない	やや薄い
てんこもり***	6月上旬	同等	同等	同等
	6月中旬	同等	多い	やや薄い

*2014～2022年までの過去9年平均との対比 **2015～2022年までの過去8年平均との対比

***2018～2022年までの過去5年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が8月3日に発表した1か月予報（8/5-9/4）では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 出穂期

出穂期は、8月4日現在の生育状況と今後の気象予報からやや早い～平年並みと予想されます。

(2) 水管理

出穂期から10日後までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らないようにしてください。出穂期10日後以降は、根腐れを防止し、登熟向上を図るため、「間断かん水」を行ってください。

ただし、出穂後に高温が続くときは、(3)の高温障害対策を参照してください。

(3) 高温障害対策

本年は今後も気温が高い予報となっているため、高温障害の発生が懸念されます。出穂後に高温が続くときは、白未熟粒や胴割粒の発生が多くなる可能性がありますので、出穂期以降は「かけ流しかん水（特に夜間のかけ流し）」を行います。かけ流しが困難な地域では「間断かん水」を行い、常時湛水しないようにしましょう。

また、落水時期は可能な限り遅らせ、「早期落水」しないようにします。

(4) 病虫害防除

ア 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類（写真1）に吸汁されると、玄米に斑点が生じることがあります（写真2）。畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底することが有効です。ただし、出穂期頃の除草は、水田に追い込むことになるため、これからの除草は行わないようにしましょう。

防除対策については、病虫害防除部の「令和5年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

イ 紋枯病（写真3）

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。‘はるみ’、‘てんこもり’ともに紋枯病にはやや弱いので、発生に注意してください。多発すると倒伏しやすくなるので、必要に応じて防除します。常発地では穂ばらみ期までに防除を行いましょう。

ウ 籾の褐変（写真4）

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病、内穎褐変病といった病気や褐変症状が発生しやすいので注意してください。常発地では、出穂期前に薬剤散布を行いましょう。



ホソハリ
カメムシ

クモヘリ
カメムシ

アカヒゲホン
ミドリカスミカメ

アカスジ
カスミカメ

斑点米カメムシ類（写真1）

斑点米（写真2）

紋枯病（写真3）

籾の褐変症状（写真4）

エ トビイロウンカ（写真5）

7月30日現在、県内の予察灯で誘殺は確認されていませんが、増殖が早いので、8月以降、水田で急激に増える可能性があります。坪枯れの被害が生じることがありますので、今後の発生状況に注意してください。

オ スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）（写真6・7）

発生地域では周辺への拡大防止や密度を減らすため、水田や水路の貝を捕殺するとともにピンク色の卵（卵塊）は潰しましょう。また、水田内への侵入を防止するため、水口と水尻に6～9mm目合いの網を設置しましょう。

カ ナガエツルノゲイトウ（写真8）

これまで確認されていなかった地域で水田への侵入が認められ、発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた場合は、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。



トビイロウンカによる
坪枯れ症状 (写真5)



スクミリンゴガイ (写真6) と卵塊 (写真7)



ナガエツルノゲイトウ (写真8)

※ この他の病害虫防除対策は、病害虫防除部が発信している「令和5年度病害虫発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2023_3_31.html

※ また、薬剤防除を行うときは、病害虫防除部の「防除情報(病害虫情報 号外 第4号)」を参考に、適切な農薬使用をお願いします。

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97362/20230703_gogai4.pdf

(5) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。

のどが渇いていなくてもこまめに水分補給するとともに、帽子の着用や汗を発散しやすい服装に心がけましょう。



(6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。 気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちょうや倒伏防止に備えます。

イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害(塩害)を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の「令和5年度病害虫発生予察情報」に注意します。

【参考】

表3 農業技術センター（平塚市）での過去10年（2013～2022年）平均

作期	品種名	水を切ってはいけない期間	出穂期	成熟期
6月上旬植	はるみ	7月26日～ 8月20日頃	8月10日	9月18日
	キヌヒカリ	7月25日～ 8月19日頃	8月9日	9月17日
	てんこもり	8月1日～ 8月26日頃	8月16日*	9月24日*
6月中旬植	はるみ	8月1日～ 8月26日頃	8月16日**	9月25日**
	キヌヒカリ	7月31日～ 8月25日頃	8月15日	9月24日
	てんこもり	8月5日～ 8月30日頃	8月20日*	10月2日*

- ・ 水を切ってはいけない期間は、出穂期約15日前～出穂期約10日後までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、水田の水位を十分に保つようにする。
- ・ *2018～2022年（5年平均）のデータに基づく。 **2012, 2015～2022年（9年平均）のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課
TEL：0463-58-0333 内線381～384